



阿蘇の空、鯛よ泳げ。

四月十四日、熊本を地震が襲いました。

以後、千回をこえる大小の揺れは、住民の心身を執拗に痛めつけました。全国各地、たくさんの方々からいたたくあふれるばかりの励ましと支援に

どれほど勇気づけられてきたことか。ありがとうございます。万感の感謝です。

被災者である私たち自身も、たじろがず、うなだれず、小さな力からでも始まります。あの明るい力……

さと温もりは人びとのところに届いた。「とにかく、たとえ小さくとも元気を届けたかったです」。手のひらに乗る鯛の甘さと温もりは人びとのところに届いた。

阿蘇の大地に、
もう一人の
自分が映る。

阿蘇のたいやき
宇野 忍

餡のいのちは水だ。阿蘇の名水が上等の鯛を育む。



火の国 阿蘇の
恵みのブランド

火の国 阿蘇の
恵みのブランド
火
Zen
A s o C i t y

素朴ながら優雅な、阿蘇ならではの鯛焼きを焼こう。そんな心意氣で宇野忍さんは鉄板の男となつた。ようやく手応えを掴んだころだった、阿蘇の大地が揺れに揺れたのは。すぐに避難所を巡った。「とにかく、たとえ小さくとも元気を届けたかったです」。手のひらに乗る鯛の甘さと温もりは人びとのところに届いた。身体能力の高い少年だった。中学で陸上部に入り、中距離ランナーとして開花。期待されて進学した高校では追い込みすぎて故障に見舞われる。が、ここでクサることなく、マネージャーとして人々と仲間たちのサポートに回った。そうした気質はどうやら生まれ持つものらしい。華やかさを求めず、粘り強い。それは社会人として有力な武器となつたが、不運は三十代前半に訪れる。病に襲われてほぼ十年間のブランクを受け止めねばならなかつた。「大苦戦でした」。が、持ち前の粘りが跳ね返し、「頭が下がるほど妻に支えられて……」、みごと復活を果たす。それが阿蘇の鯛焼きである。熊本市内で老舗和菓子店を営む先輩を師匠と仰ぎ、寝る間も惜しんで、「自分の鯛焼き」を求めた。「ただただ、がむしゃらです」。最近、また長距離走を始めた。早朝走ると、阿蘇の大地にみずからの影が映る。もう一人の自分、と呼ぶ。